

## 12 グループウェア機能

教材開発には、指導員自らがカリキュラム策定から指導案、教材、実技課題まで一人で作成する場合と、複数の指導員が同一の科目に対し、協同で執筆する方法がある。

この協同執筆作業には、EWS、PC、LAN、マルチメディアを用いグループウェア機能により実現しようというシステムである。

グループウェアでは、情報の共有化、テレポインティング、マルチメディア・ネットワーク技術インフラの開発、整備が実現されようとしている。情報の共有化とは、以下の通りである。

- ① VIEWの共有（複数の利用者が同じ画面を見ている）
- ② 処理結果の共有（複数の利用者が操作することが出来る）
- ③ 蓄積データの共有（複数の利用者がデータを協同して利用出来る）

### （1）ライブラリ管理

データの保存、管理を行なう機能で、ワープロ文書、イメージデータなどまとめて管理する。キーワードによる文書検索も行なう。

### （2）電子メール

複合文書の一括送付、同一文書の多数配布、メールの親展指定も可能である。

### （3）電子掲示板

ワープロ作成文書、表計算データ、イメージ、音声などの登録が可能な電子掲示板、電子会議機能も可能である。

### （4）スケジュール管理

利用者がスケジュール確認、打合せの時間調整などスケジュール管理が容易に出来る。会議の時間を、利用者と会議室の空き情報の組合せにより、予約を取ることが出来る。

(1) ~ (4) は、現在市販されているツール類である。

グループウェアの機能は、情報交換、グループ調整、創造活動支援といったレベルに分類することが出来る。